

# 安齋先生の技術通信

2008年  
4月号



技術顧問・理事  
安齋 正弘 先生

オリンピックでの「マラソンランナー」等の参加辞退・健康への懸念が話題にのぼるこの頃である。かつての日本では全く問題にされなかったし、他の国でも聞いたことのない話で、結構関心をもっています。

さて今回は、少しこれまでの「おさらい」をしたいと思います。昨年12月号での「見えない部分の筋かい探し」と、今年1～3月号の「90角のタスキ掛け」についてです。

## 1. 【見えない部分の筋かい探し】

これについて12月号では「破壊・暴露」に至らない程度の方法での、床下からの筋かい探しについての考察を試みたわけですが、筋かいの有無やサイズの確定・推定が目的でした。

これに対して床上から行うことも当然考えられますね。真壁でなければ「貫」はないから幅木かその直上の石膏ボード等に小さな孔をあける事により同じ目的が果たせます。この「小さな孔」についてももう少し突っ込んで考察してみよう。針金を差し込める程度の孔の場合は12月号で紹介した通りの筋かいの有無やサイズの推定しかできませんが、もう少し大きな孔にするとどうでしょう？もしかして明かりを当てれば「目視」ができる可能性ががぜん大きくなります。目視が可能になれば「金物の有無」や「劣化程度」が確認できるかも知れない！しかしここまでの確認を可能にするには「小さな孔」といってもある程度の大きさは必要になるでしょうね。「光源」と「目」の位置のズレを解消しなければならず必要な孔径はどんどん広がってしまう…。そうだ！耳鼻科の先生が使う反射鏡を用意してその真ん中から覗けばイイかも知れない！！

でも①金物を含む接合仕様の確認や、②筋かいサイズの確認・推定については他の場所（1階天井裏や小屋裏）の調査時に【傾向】としてつかめる筈なので、③「その場所」に筋かいがあるのか無いのかの確定と④「筋かい尻の劣化程度」に調査の重点が移ることになる。この劣化程度の判断では床下からの調査の場合では目視が不可能ですから土台調査（目視や打診）からの推定となりますがそれでも十分と言えるでしょう。

調査方法・手段が床上であれ床下であれ、身体が入れない場所を除いては可能な限り「みなし筋かい」手法に頼らずに「確定情報」を増して「診断結果の精度」を高める努力をしなければならぬと思う。

また「壁に孔をあける」場合にその後処理として、「水道工事」で使う「キャップ」を使用している組合員の方もおられるようで、皆さんそれぞれ工夫されているようです。キャップのお化粧（塗装仕上）については最近便利な塗料（下地を選ばず何にでも塗れる塗料）も出回っておりますので、良い時代になりました。

お客様への事前説明とご理解のもとにクレーム原因とならないように十分に注意して実施してください。

## 2. 【90角のタスキ掛け交差部のディテール】…（及びその他の情報。）

情報不足により、誤ったディテールが出回っていました。その結果の構造的な懸念事項と倍率を45×90のタスキに評価を落とす場合の方法を1～3月号で紹介してきましたが、1月号の紹介が90角のタスキ掛けを「90角のタスキ掛けの倍率」で評価する場合の本物のディテール。倍率は「45×90タスキ掛け程度の方が良いが、デザイン（見た目）上の理由で90角のタスキ掛けに見せたい。」場合のディテール（案）を3月号で紹介しておきました。この案では筋かい支持端と材料の「厚みの中心を一致させる」のが目的ですので「スリット」を入れたりしていますが、この部分のデザインは自由で「そのまま」でも「更に手を加え」ても良く、また「何かで巻きつけて隠して」仕上げてOKです。前述の「厚みの中心を一致させる目的」を実現してくれれば、どんなデザインにしても構いません。

さて今回は【筋かいのディテール】のみならず、「軸組構法」・「枠組壁構法」の構造耐力上主要な部分の特記仕様書の作り方について、公表されている情報がある。事務局の嶋田君に教えてもらうまで小生もその存在も知らなかったのですが、これは非常に良い、使える情報だと思いますので、ここで紹介しておきます。情報源は「(財)日本住宅・木材技術センター」で、ホームページアドレスは以下のとおりです。

【<http://www.howtec.or.jp/gov/kaisei/siyousyo.pdf>】

ここを開いて目次をみると、「4.標準納まり図」があり、この中に「90角のタスキ掛けの倍率」のディテール（見本図…本物は有償）も入っています。この標準納まり図となる根拠条文は告示1460号と1654号となっておりますが、1460号は「N値計算法」の基となる告示。1654号は「品確法」関連の告示です。その他木造住宅の基本としての多くの情報が詰まっていますので皆さんも是非ご覧・ご利用下さい。

皆さん、お願いします。「技術通信のテーマ（ネタ）」をください。このままでは「ネタ切れ」で……。

技術的なご質問・ご相談などは・・・

TEL：048-224-8316（川口事務局）

メール：question@mokutaikyo.com

FAX：048-224-8315

まで、お気軽にどうぞ！！